

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2772401168
法人名	有限会社 えがお
事業所名	グループホーム えがお
訪問調査日	平成 20 年 10 月 17 日
評価確定日	平成 20 年 11 月 17 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2772401168
法人名	有限会社 えがお
事業所名	グループホーム えがお
所在地	枚方市長尾宮前2丁目20番12号 (電話) 072-858-1336

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	大阪府中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成20年10月17日	評価確定日	平成20年11月17日

【情報提供票より】(20年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	10 人	常勤	4 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 6.06 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円~43,000円	その他の経費(月額)	22,000円	
敷金	有() 円 ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,315 円	

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	6 名	男性	0 名	女性	6 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均	81.6 歳	最低	71 歳	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長尾台診療所 さくらクリニック 枚方公済病院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

枚方市東部、JR沿線の寺社の深い緑に隣接する住宅地に、民家を改装したホームが在る。代表者の認知症高齢者介護に寄せる熱い思いの設立から8年、その熱意に共鳴する職員の日々の実践が利用者の穏やかな笑顔に溢れている。定員6名という経営上の難しさもあるようだが、知恵と工夫の出し合いで補完する、そのパワーがこのグループホームのケアの質を高める原質にもなっているようだ。職員が帯同する乳児や下校時に立ち寄る小学生の存在が、利用者の元気の素になり、職員の潤滑油にもなって小さくて大きな擬似家族が存在している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	課題の意図するところを理解し、代表者以下全員による改善へ向けての努力がみられる
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価シートを全員が保有し、部分的ながら各項目の主眼とするところを日々の実践の中で確認し、気付きを出し合い改善点を見出す作業を重ねている。これらを管理者・代表者が纏めたものである。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は定期的開催され、ホームからの報告を中心に意見交換が行われているようだ。しかし、構成メンバーの硬直などによるマンネリ化の傾向は否めない。運営の工夫と活性化への努力を望む。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族来訪の機会を捉え、意見・苦情を傾聴し、即時解決への努力を怠らないことを旨としている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	定員を6人とする小さな世帯構成が、設立から8年という年月と共に自然な形で近隣に溶け込み、利用者個々の状況に合ったお付き合いができています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとり個性豊かに、心豊かに、住み慣れた地域で暮らしていくことを支援する としての独自の理念を標榜している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有の下、介護の心得10ヶ条・心がまえ10項目を夫々が保持し、日々の実践の糧としている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	代表者をはじめ職員の多くが近在する関係もあり、設立から8年という経過も手伝って、ひとつの世帯、地域の一員としての地域交流は充分に行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価シートを各自が保有し、項目ごとの主眼と日々の実践との接点を確認し、改善課題への気付きとその改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催され、各種報告と話し合いが行われているが、それ以上の成果は見出せない状況にある。	○	推進会議の構成員に柔軟性をもたせ、会議自体の視野を拡げるなどの工夫と、活性化へ向けての努力を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	代表者の経歴などからの接点も多くあり、主体的な交流がある。2ヶ所の包括支援センター・市内13の施設からなる施設委員会の役員などにも携わっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	原則として支払いを現金払いとしているので、その際に必要な報告をしている。その他、月に1回写真等を添えた手紙で近況報告も行っている。容態変化や受診についての報告も随時に行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時の丁寧な聞き取りと、運営推進会議での意見を参考に、即断即決の対応を心掛けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来の職員が多く、培ってきたお互いの介護力を認め合い、補い合い、高め合う関係作りが、利用者の安心と信頼に繋がっていると推察される。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修の情報提供と参加への支援があり、その報告書や資料を基に社内会議を行い、全員のレベルアップにつなぐ体制をとっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム東部地区連絡会の立ち上げに関与し、既存のケアマネ連絡会や施設研修会に参加している。施設間の課題の質の違いを知り、視野の拡がりを得るなどしてサービスの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族にゆっくり向き合うことで個性と状況を把握し、一つ一つの対応を確かめながら、納得と安心の入居につながるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個々人の「これまでと今」への理解を深め大切にしながら、擬似家族として支え合う関係を保ち続けたいとしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 1人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	好きなこと、出来ることを自由に、好い笑顔の毎日であることに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者個々人の持っている能力や習慣、心身の状況など基本的な情報の下、生活課題についての話し合いを重ねて介護計画作成を進めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを基調とした定期的な見直しのほか、状況変化に即したカンファレンスによる新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所および法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の要望に応じて、受診や特別外出の支援を行っている。家族や近隣住民の介護や諸手続きについての相談にも応えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各個人のかかりつけ医や協力病院との連携を図り、適切な医療が受けられる体制がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・看取りに関する指針について同意書を用意し、状況変化に応じて家族と話し合うとしている。H19年12月の居室での看取りは貴重な経験となり、この際の往診に応じた医師との出会いはこのホームの大きな財産となっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	親しさが狎れに流れないよう、お互いの言動に注意を払っている。個人情報の管理も適切である。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	6人定員の利点を最大に活かした、危険に対する十分な配慮のもとでのマイペースの日常がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「食べることが一番」、献立への注文を聞きながら、旬と安全な食材の調達に心を砕いている。ホーム菜園での収穫物も食卓に上り、季節の話題とともに食べる楽しみも加味されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個人の希望・状況に合わせた入浴支援が工夫されている。利用者同士の会話から、お風呂嫌いの人も誘導されての入浴風景もみられる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	やりたいこと・やれること・うれしいことを、個人の持っている人間としての総合力が発揮できる支援を心掛けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	6人定員の余裕性を活かし、時候・天候に合わせての様々な外出支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の状況による必要時以外は、玄関の開錠を原則としている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練のほか、緊急時には近隣の協力が得られる体制も整えられている。消防関係者の指導を受ける必要性も認識している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材に旬のものを、身体にいいものを取り入れ、献立には近在の栄養士の指導を仰いでいる。各人の摂取量や水分補給への配慮も適切に行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家利用からくる多少の手狭さも、利用者には家庭的な雰囲気として落ち着きを感じさせるものとなっている。六角形テーブルの使用はあらゆる面で、お互いが見えるいい関係づくりに最適のようだ。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改装による居室には、家具の持ち込みや個人の好みによる設えもあって、より居心地のよいものになっている。		